

## 岩手県 野田村保育所

2016年 2月 29日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

- (1) 「命を守った避難訓練～社会福祉法人野田村保育会 野田村保育所～」学校安全Web Web社のたより第19号(2011.12) より  
<http://www.ipnsport.go.jp/anzen/branch/sendai/tabid/1452/Default.aspx>
- (2) 「岩手・宮城・福島「保育所」犠牲ゼロ！保育士たちの周到さと勇氣」J-CASTニュース ワイドショー通信簿(2011.5.25 16:58) より  
<http://www.j-cast.com/tv/2011/05/25096422.html?pe=all>

### 【場所】

海から約430mの位置にある。

住所:岩手県九戸郡野田村野田第17地割39-7

### 【東日本大震災による被害】

津波により園舎が全壊。

### 【震災当日の様子】

野田村保育所では、平成18年に津波浸水域に指定されたことをきっかけに、地震と津波を想定した避難訓練を毎月行っていた。地震発生から15分で津波が到達するという想定で、避難ルートを通常ルート(遠回り)と近道ルートの2種類設定し、日頃の散歩の際に避難ルートを散歩コースとして使用し、園児に慣れさせていた。

震災当日はちょうど毎月の避難訓練の日であった。15時20分に予定していた訓練に備えて園児を午睡から起こして準備をしている時に地震が起こった。停電が発生し、テレビから情報を得ることもできなかったため、すぐに避難開始の判断を行った。職員は、園児に防寒着を着せ、非常持ち出し袋、AED、調診簿(登園時の様子観察、当日の持ち物、出欠状況等が一覧になっているもの)、携帯電話を予め決められていた通りに分担して持ち出した。これらの持ち物は日頃から決まった場所にまとめて置くようにしてあった。

通常の避難では、0歳児はおんぶ、1歳児は避難車に乗せ、年長児から順に避難することになっていたが、当日は準備ができた順に随時避難を開始した。避難ルートは近道ルートを使用した。園児81人職員14人は無事に避難した。(1)

また、津波からの避難で使用したこの近道ルートは、農家の畑を通るルートで、職員は事前に農家に避難ルートとして使えるように許可を取っており、避難訓練でも使用していた。(2)

### 【調査して言えること】

野田村保育所は海から約430mの位置にあり、海から近いが海を見ることはできない保育所であった。安全な高台に避難するためには1km以上移動する必要があり、迅速な避難が必要な場所である。

また、2014年4月12日に、所長(震災当時は主任保育士)に聞き取り調査を行った。

当日は0歳児も含めて100人弱の園児がいて、全員が無事に避難することが出来た。それは、通常の避難訓練通りの避難ができた結果であった。前述の通り、通常の避難ルートとは別の農家の畑を突っ切る近道ルートで避難訓練を行っており、少し高台にある農家にまず避難し、そのあとさらに先へということであった。そのことは保護者にも十分周知してあった。高台の農家まで15分以内という目標で訓練していたが、当日は最後尾の保育士で11分で避難することができた。2歳児以上の子どもは歩いて、それ以下の子どもは避難カーに入れて保育士が押して避難した。日常の保育では普通の散歩の他に、速歩散歩(手をつながず話をせず走らず)も行って訓練していた。

聞き取り調査の結果より、野田村保育所は地震の際に迅速な避難が必要な場所であったが、事前の入念な避難訓練によって実際に迅速な避難を行うことができた保育所であったことが分かった。



野田村保育所から見た避難場所(2014/4/12撮影)



(2014/4/12撮影)